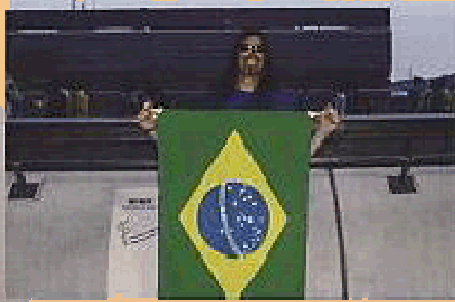
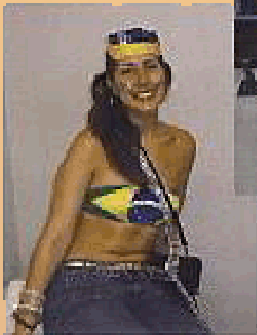


千葉先生のコラム (XXXXX)

2002年FIFAワールドカップはどうでしたか？楽しかったですね。

私は最終戦の会場ドクターを努めました。そこで見たものはブラジルのサッカー文化でした。この男性は試合開始1時間以上前から、入り口でこの旗を一人で振って騒いでいました。やってくるブラジル人達は、彼の熱気を感じると一緒に一瞬騒いで、スタジアムへ入って行きました。この女性は、右足部の捻挫で運ばれました。試合開始前30分に、階段で飛び跳ねていたそうです。早く歩けるようにして試合を見せてくれと無理を言っていました。ブラジル人全体が、健康に常軌を逸していました。



さて、今回のワールドカップで日本は善戦しました。日本の何が変わったのでしょうか。トルシエ監督は何を残していったのでしょうか。明らかに日本人選手の体力は向上しました。言い換えると、彼は体力のある選手を選択したのです。すなわち、彼が残していったものは科学的なデータに基づいたサッカーでした。その功績として、彼のいた数年間で、スポーツに科学を導入することが当たり前になりました。でも、一流のプレーを毎日観戦してわかったことは、日本サッカーの未熟さでした。パス、シュートの精度、意外性、イマジネーションのどれをとっても、南米、欧州の選手にはかないませんでした。

ベルマーレの歴代の外人監督を考えてみると、同様に強い選手の育成を考えていました。我々医師達は、弱いけれど上手い選手を大切にしていました。しかし、我々はここでこの壁を越えなくてはならないのではないかと感じ始めています。個々が自分を強くして障害を克服、予防する精神が必要ですし、国民全体がもっとタフになってこそ、日本のスポーツ文化が進化するのかもしれない。

田名整形外科クリニックに来院する患者さんの中に、自分を強くして障害を克服しようとする方がいて私は感激しています。若い人ばかりではなく、中年以降の方々にも比較的多いのではないのでしょうか。田名にも独自のスポーツ文化ができて、田名からのオリンピック金メダリスト、Jリーガーが育つ事を期待しております。

千葉 昌宏

